

生産・流通・消費の実態把握と需給見通しについて

令和7年9月

農林水産省

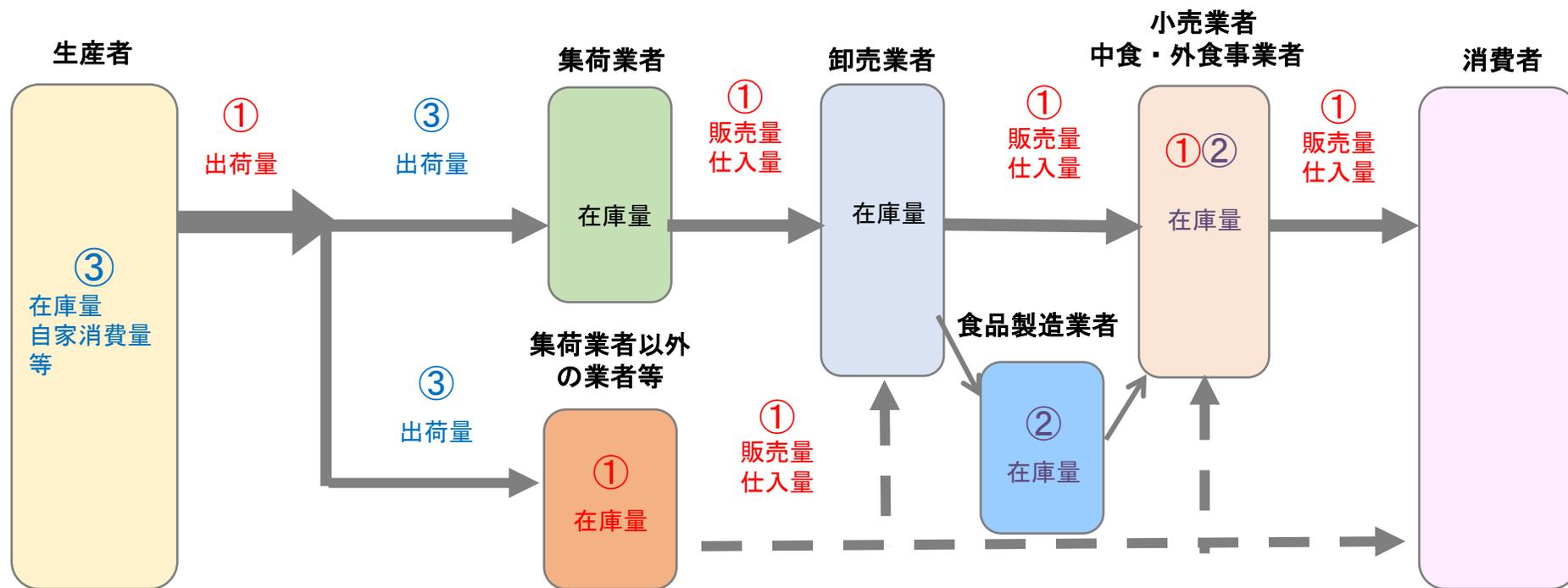
農産局

米の流通実態の把握の強化

- 米の流通実態をよりつぶさに把握するため、**調査対象業界の捕捉率を上げるべく**、従来からの把握に加え、以下により令和7年6月に緊急調査を実施。

<具体的な内容>

- ① 米の出荷・販売事業者の**調査対象を拡大**【500トン以上 → 全数】
- ② 現在把握できていない**小売業者、中食・外食業者、食品製造業者**へのヒアリング【新規】
- ③ 生産者の在庫・出荷先・数量等を調査【新規】



全届出業者（7万業者）を対象とした調査【緊急調査①】

- 既に毎年の報告徴収対象者となっている年間取扱数量500玄米トン以上の集荷業者及び卸売業者等に加え、これらの業者を除く食糧法に基づく届出業者（20精米トン以上を取扱う者）の全て（約7万業者）を対象に、令和5年7月から令和7年6月の仕入・販売・在庫数量の調査を実施。
- 調査の結果、**回答率は19%にとどまり、全体の流通を把握するための実効性に課題があることが明らかとなった。**

【報告状況】

（事業体）

	対象者数	割合
全届出業者（報告徴収対象者を除く）	69,866	100%
期日までに報告があった者	13,181	19%
玄米の取扱い有	4,433	
集荷業者	528	
卸売業者	989	
小売業者	2,133	
外食・中食業者等	36	
農業者・農業生産法人	747	
玄米の取扱い無（精米商品のみ取扱いなど）	3,778	
廃業・休業等	4,970	
宛先不明で郵送が戻って来た者	18,056	26%
期日（7月4日）までに報告がなかった者	38,629	55%

【調査結果概要】

（千トン（玄米））

	期首在庫	仕入数量	販売数量	期末在庫
5年7月～6年6月	62	843	842	63
6年7月～7年6月	63	869	869	63
増減	+1	+26	+27	+1

【6月末在庫量の状況】

（千トン（玄米））

	①報告徴収対象者			②全届出業者（①除く）			合計		
	5/6年	6/7年	差	5/6年	6/7年	差	5/6年	6/7年	差
全体	1,279	1,376	+97	63	63	+1	1,342	1,439	+98
集荷業者	891	893	+2	9	7	▲3	900	900	▲1
卸売業者	388	483	+95	21	26	+4	409	508	+99
小売業者				25	24	▲1	25	24	▲1
外食・中食業者等				1	1	▲0	1	1	▲0
小計				56	57	+1	56	57	+1
農業者・農業生産法人	※	※		6	6	▲0	6	6	▲0

※ これまでは、生産段階の在庫量については、「生産者の米穀在庫等調査」の対前年増減率等を基に算出した在庫量で把握。

実需者（小売業者、中食・外食業者、食品製造業者）に対するヒアリング【緊急調査②】

- これまで報告徴収の対象ではなかった小売業者、中食・外食業者、食品製造業者に対し、精米・玄米それぞれの在庫や仕入れの実態を把握するためのヒアリングを実施。
- **小売業者、中食・外食業者は、原料米の仕入形態はほぼ精米であり、在庫保有は極めて少ない。**

業態	卸の販売先数量 におけるシェア	仕入				在庫			外国産等取扱状況	
		仕入先	形態	予定数量（玄米）/ 年	契約の 有無	その他	形態	数量（精米）/ 年		在庫状況
小売 業者 3団体 6業者	15.3%	卸売業者 (6者)	精米	約44万7千トン (6者計)	なし	○卸売業者から事前契約せず、新米の時期に前年実績に応じ ている。 ○大手卸売業者から主要産地銘柄を中心に納入。 ○地方卸売業者から地元銘柄を納入。	精米 のみ	約1万1千トン (6者計)	5～10日分	○今回の不足により、やむを得 ず外国産米を販売。 ○今後については、新米販売 価格により、価格バリエーション が必要な場合は継続して陳列。
中食 業者 6団体 7業者	44.6%	卸売業者 (7者) 集荷業者 (1者) 農業生産法人 (1者)	精米	約37万9千トン (7者計)	長期 契約 スポット	○ほとんどの業者において年間契約など、比較的長期契約に より取引。 ○一部業者において、集荷業者と長期契約している事例があ る。	精米 のみ	約2.7千トン (7者計)	1～3日分 ただし、精米 工場を所有し ている業者 は玄米在庫 がある。	
外食 業者 1団体 3業者	23.6%	卸売業者 (7者) 集荷業者 (1者) 農業生産法人 (1者)	精米	約13万2千トン (3者計)	長期 契約 スポット	○ほとんどの業者において、年間契約など比較的長期契約に より仕入。 ○需給緩和の場合、端境期のスポットで比較的安価な米穀 (小売業者の余剰品)が流通するため、これを見据えて年間契 約数量を減らして契約。	精米 のみ	約0.6 千トン (3者計)	0～1日分 ただし、精米 工場を所有し ている業者 は玄米在庫 がある。	○カリフォルニア米を国産とブ レンドし販売。
食品製造 業者 2団体 5業者	22.8%	集荷業者及び 卸売業者 (5者)	精米	約7万8千トン (5者計)	年間 契約	○使用する加工用米及び主食用米について、生産年8月～12 月頃に、集荷業者及び卸売業者と年間契約した後、翌年1月 ～4月頃、精米として納品され使用。 ○使用が遅くなる理由は、水分等の品質を平準化するため。	精米 のみ	約0.9千トン 未満 (5者計)	精米・数日分	

生産者の出荷数量等に関する聴き取り調査（全国の出荷量等の推計）【緊急調査から推計③】

- 生産者（618客体）に対する在庫数量等調査の結果から、2020年農林業センサスの作付規模の階層別作付面積のシェアを用いて、生産者全体の出荷量等を推計。
- 生産者の出荷数量のうち、**JA系統などの集荷業者への出荷数量は前年産に比べ34万玄米トン減少**（前回調査では31万玄米トン減少）する一方で、**生産者の直接販売等は49万玄米トンの増加**（前回調査では44万玄米トン増加）。

《生産者の出荷数量等調査による全国の在庫量等の推計》

((千トン(玄米))

	収穫量	出荷数量	出荷先		生産者消費 (無償譲渡 含む)	在庫量
			うち集荷業者 への出荷	うち生産者 直接販売等		
R6年6月現在	6,610	5,710	3,250	2,460	569	331
R7年6月現在	6,792	5,858	2,910	2,948	600	335
前年差	+182	+148	▲340	+488	+31	+3
前年比	103%	103%	90%	120%	105%	101%

※1 生産者の在庫数量等調査の結果から、2020年農林業センサスの作付規模の階層別作付面積のシェアを用いて、生産者全体の在庫量等を推計。

※2 収穫量は、農林水産省大臣官房統計部「作物統計」の水稻の収穫量(主食用米)。

(参考) 前回調査時（1月末時点）の全国の出荷量等の推計

((千トン(玄米))

	収穫量	出荷数量	出荷先		生産者消費 (無償譲渡 含む)	在庫量
			うち集荷業者 への出荷	うち生産者 直接販売等		
R6年1月現在	6,610	5,220	3,299	1,922	466	923
R7年1月現在	6,792	5,358	2,992	2,366	418	1,017
前年差	+182	+137	▲307	+444	▲49	+93
前年比	103%	103%	91%	123%	90%	110%

《生産者直接販売等の出荷先と全体の出荷数量の推計(令和7年6月末現在)》

業種	割合	出荷数量 (千トン(玄米))
卸売業者 ※	38.9%	1,146
消費者直売等	18.3%	539
小売業者 ※	16.6%	489
集荷業者(系統外) ※	13.5%	398
中食・外食業者 ※	7.4%	218
農業生産法人等	2.3%	66
ふるさと納税	0.8%	23
米加工業者	0.7%	20
その他(業者名未回答等)	1.7%	50
合計	100.0%	2,948

※ 出荷数量は、R7年6月末現在の生産者直接販売等の推計値(2,948千トン)に、出荷先の業種別割合を乗じて算出。

※ 各業種の出荷先のうち、在庫量等の報告徴収の対象者が占める割合は、卸売業者の58%、小売業者の37%、集荷業者(系統外)の44%、中食・外食業者の0%となっている。

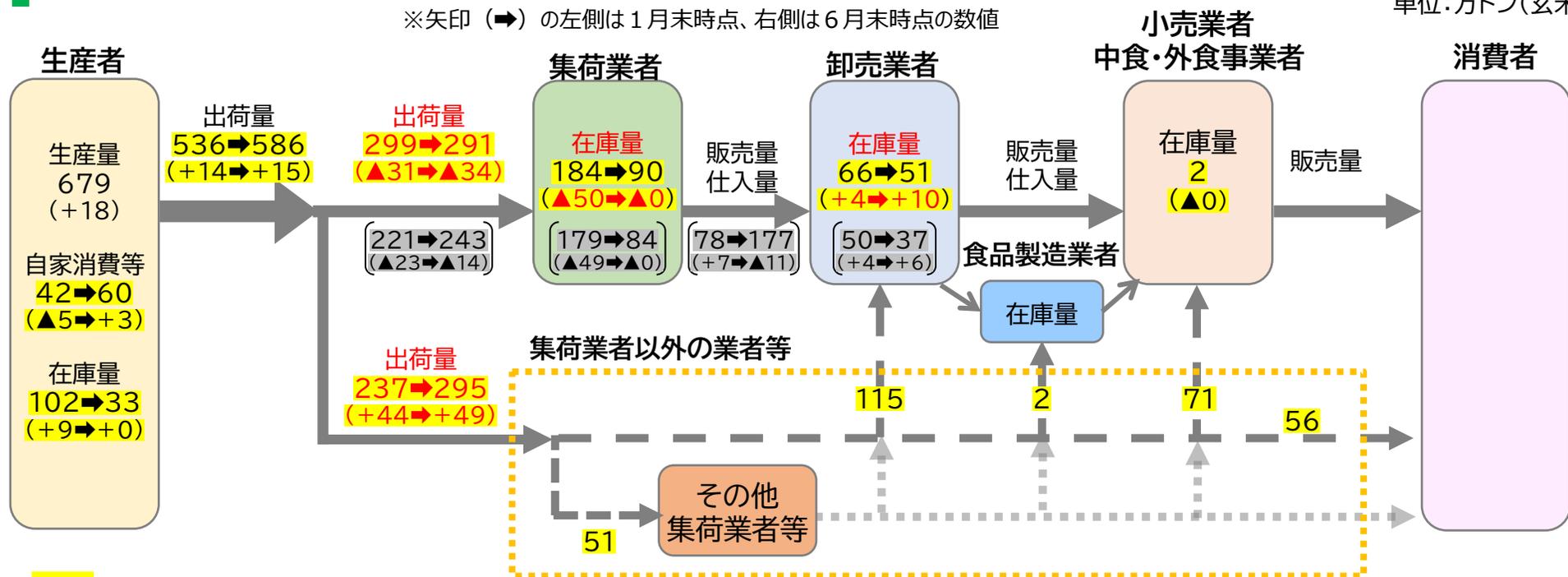
緊急調査で明らかになった令和6年産米の流通状況【推計】

- 集荷業者以外の業者等への出荷量が全体の約半分を占め、流通が多様化していることが明らかになり、これらの業者から卸売業者や小売業者、中食・外食事業者への販売が一定程度存在。他方で、その他集荷業者等の在庫量等は把握できていない状況。
- 流通実態を、時間的経過を含め的確に把握するためには、従来からの把握では調査項目等が不十分。

令和6年産米の流通状況（令和7年1月末時点と6月末時点との比較）

※矢印（⇒）の左側は1月末時点、右側は6月末時点の数値

単位:万トン(玄米)



緊急調査で判明した結果(推計値) ()内は前年差

従来から把握している数値()内は前年差【集荷量・販売量は5,000トン以上の集荷業者、在庫量は500トン以上の集荷業者、4,000トン以上の卸売業者が対象】

- ※1 生産者の在庫数量等に関する聴き取り調査の結果から、2020年農林業センサスの作付規模の階層別作付面積のシェアを用いて、生産者全体の在庫量等を推計。
- ※2 集荷業者以外の業者等の業種別の出荷量は、生産者の在庫数量等に関する聴き取り調査の生産者直接販売等の推計値(295万トン)に、出荷先の業種別割合を乗じて算出。(消費者への販売量は、消費者直売等とふるさと納税の計であり、その他集荷業者等への出荷量は、集荷業者(系統外)、農業生産法人等及びその他の計である。)
- ※3 その他集荷業者等の51万トンの販売先は未確認。

大手集荷・卸への訪問調査（報告内容と各種台帳・伝票等との突合） 【緊急調査】

米穀の取引に関する報告徴収実施要領（平成20年8月12日付け20総食第366号総合食料局長通知）による**食糧法第52条第1項に基づく報告内容等を確認するため、当該報告を行う者を訪問し、同法51条に基づく調査を実施**

1 調査対象

取扱数量の多い事業者を以下のとおり選定

- (1) 集荷業者：7者
- (2) 卸売業者：6者

2 調査内容

以下の報告内容について、**取りまとめ手法の確認、各種台帳及び伝票等との突合**を実施

- (1) 仕入・出荷（販売）数量： 需要量の算出に用いる在庫数量等のデータ
- (2) 出荷（販売）金額： 玄米取引の指標となる相対取引価格のデータ

【ポイント】

大手集荷・卸への訪問調査を行った結果、需給や価格の把握に影響を与えるような報告内容の齟齬はなかった。

【課題等】

- 改めて要領において求める報告対象の区分や修正等が発生した際の手続きについて周知する必要。
- 一方で、効率的かつ正確な報告を求めるためには、報告対象者の販売等管理システムの管理状況等を踏まえたものとするについて検討を深める必要。

● 仕入・出荷（販売）数量

社内システム等から抽出したデータの取りまとめ状況を確認し、伝票等の証拠書類と突合。

集荷業者において、報告内容の修正が必要となった場合に、遑って修正を行わず、報告当月の期末在庫にあわせて仕入数量等を調整している事案を確認。

● 出荷（販売）金額

(1) 集荷業者

社内システム等から抽出したデータの取りまとめ状況を確認し、契約書等の証拠書類と突合。**問題となる点は確認されなかった。**

(2) 卸売業者

社内システムから抽出したデータの取りまとめ状況を確認し、契約書等の証拠書類と突合。**以下の課題となる点を確認。**

① 仕入価格（出荷業者・卸等からの仕入）

契約が実際の仕入発生時として管理されており、収穫前契約等において契約締結時点とする要領の規定に従った報告となっていない事案を確認。

② 販売価格（小売、中食・外食向け販売）

商品管理において販売先の業態までの管理等を行っていない中で、中食・外食に区分すること等が困難な状況となっている事案を確認。

精米歩留りの状況調査（事業者の精米実績） 【緊急調査】

- 精米歩留りについて、43事業者に対し、聞き取り調査を実施。
- **令和5年産の精米歩留りは、88.6%**。令和2～4年産の平均と比較すると**▲1.4%の減少**。
- **令和6年産の精米歩留りは、89.2%**。令和2～4年産の平均と比較すると**▲0.8%と減少**しているが、令和5年産と比較すると**+0.6%の増加**。
- **精米供給量には、この歩留りの減少により、令和5年産では10万玄米トン程度、令和6年産では6万玄米トン程度影響**していると考えられる。

【調査の概要】

（調査対象）

- 大手卸売業者(10社)、地方卸売業者(23社)、米穀店(10社)
計43社の事業者

（調査内容）

- 令和7年6月末時点の令和2～6年産の精米歩留りを調査

【精米歩留りの推移(調査結果)】

	精米歩留り			
	大手卸売業者	地方卸売業者	米穀店	
2年産	89.7%	89.8%	89.3%	89.7%
3年産	90.3%	90.5%	89.7%	90.0%
4年産	90.0%	90.2%	89.5%	89.6%
5年産	88.6%	88.8%	88.1%	88.6%
6年産	89.2%	89.4%	88.9%	88.8%

【令和5・6年産と過去の精米歩留りとの比較(調査結果)】

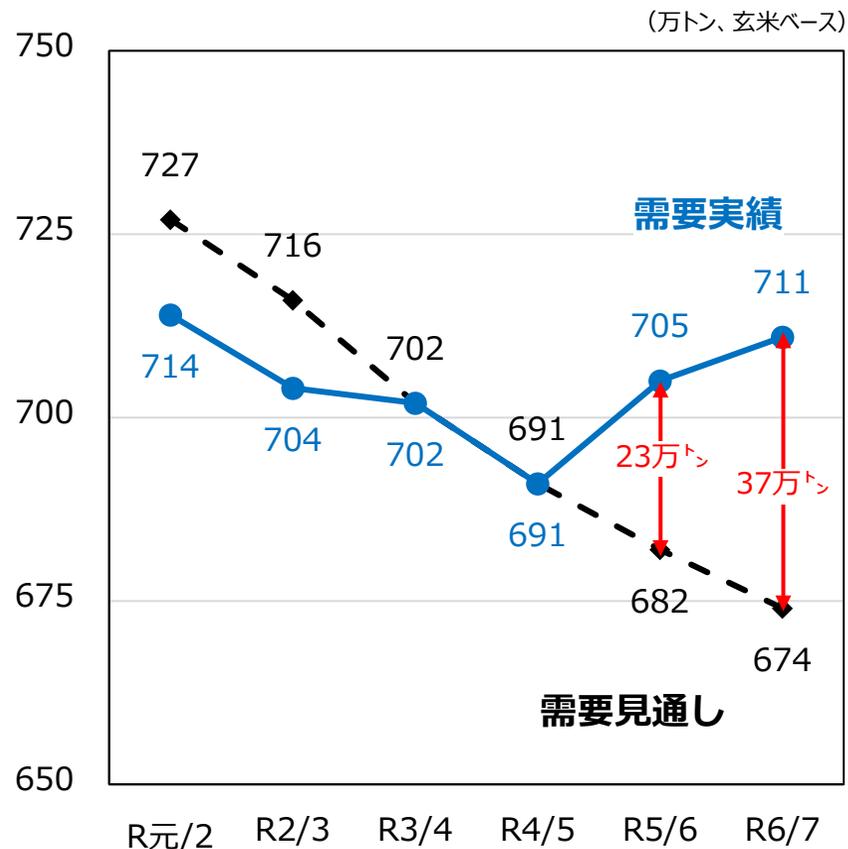
(単位：%)

過去の精米歩留り				昨年の精米歩留り		今年の精米歩留り		
2年産	3年産	4年産	2～4年産平均	5年産	過去平均との比較	6年産	過去平均との比較	昨年との比較
			①	②	②－①	③	③－①	③－②
89.7	90.3	90.0	90.0	88.6	▲ 1.4	89.2	▲ 0.8	+0.6

注：数値は、令和7年6月末時点のもの(速報値)

- 全届出事業者（7万業者）を対象とした調査において、回答が約2割にとどまり、実効性のある把握手法の仕組みを含め、検討する必要があることが明らかとなった。
- 従来の把握は期末在庫量に偏重しており、流通実態を把握するためには、生産者から出荷される米の約半分が流通する集荷業者以外の業者等の仕入、販売、在庫の実態も定期的に把握する必要があることが明らかとなった。
- 需要を見通すためには、精米ベースでの流通実態を把握する必要があることが明らかとなった。

需要実績と需要見通し



①精米歩留まりの悪化

令和4年産 90.0% ⇒ 平常時の値

令和5年産 88.6% ⇒ **約10万ト**

令和6年産 89.2% ⇒ **約6万ト**

②インバウンド需要

R4/5年：2.1万ト

R5/6年：**5.6万ト**

R6/7年：**6.3万ト**

③家計購入量の増加

二人以上世帯の購入量

R4/5年：56.6kg/世帯

R5/6年：57.2kg/世帯 ⇒ 対前年**約2万ト**増

R6/7年：60.2kg/世帯 ⇒ 対前年**約11万ト**増

需要実績が増加した要因を全て特定することは難しいが、

- ・米の相対的な**値ごろ感** (R5/6年)
- ・米不足に対する**不安・消費者心理** (R6/7年)
- ・**ふるさと納税**の返礼品用の販売数量の増加 (R5/6年)

が影響したか。

精米歩留まりの悪化

- 令和5年産の精米歩留りは、88.6%。令和2～4年産の平均と比較すると▲1.4%の減少。
- 令和6年産の精米歩留りは、89.2%。令和2～4年産の平均と比較すると▲0.8%と減少しているが、令和5年産と比較すると+0.6%の増加。
- 精米供給量には、この歩留りの減少により、令和5年産では10万玄米トン程度、令和6年産では6万玄米トン程度影響していると考えられる。

【精米歩留りの状況調査の調査結果】

	精米歩留り			
	大手卸売業者	地方卸売業者	米穀店	
2年産	89.7%	89.8%	89.3%	89.7%
3年産	90.3%	90.5%	89.7%	90.0%
4年産	90.0%	90.2%	89.5%	89.6%
5年産	88.6%	88.8%	88.1%	88.6%
6年産	89.2%	89.4%	88.9%	88.8%
5年平均	89.6%			

【令和5・6年産と過去の精米歩留りとの比較(調査結果)】

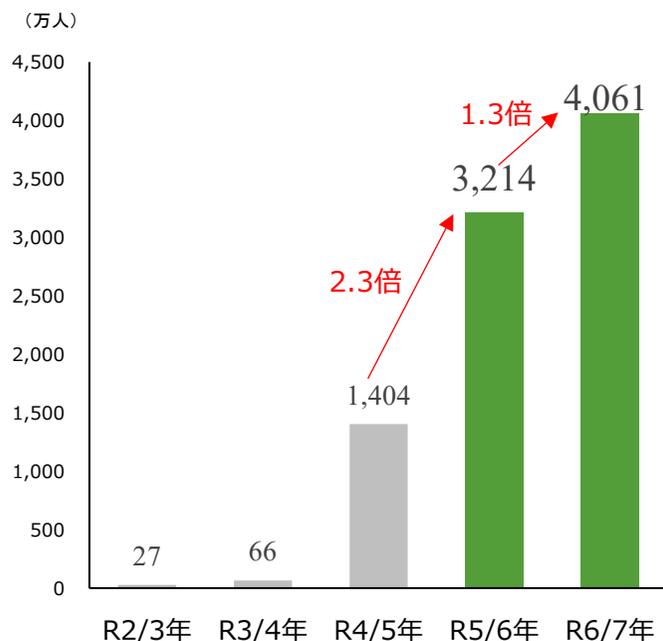
(単位：%)

過去の精米歩留り				昨年の精米歩留り		今年の精米歩留り		
2年産	3年産	4年産	2～4年産平均	5年産	過去平均との比較	6年産	過去平均との比較	昨年との比較
			①	②	②－①	③	③－①	③－②
89.7	90.3	90.0	90.0	88.6	▲ 1.4	89.2	▲ 0.8	+0.6

インバウンド需要の増加

○ コロナ禍で減少した訪日外客数が、近年は大きく増加。

訪日外客数の推移



出典：日本政府観光局「訪日外客統計」

インバウンド需要の試算

	訪日外国人数	平均泊数 (注3)	訪日外国人 当たり米食回数 (注5)	訪日外国人による 米の需要量 (注6) (精米ベース) (玄米換算)	
R2/3年	27万人	8.8泊 (注4)	17.7回	0.0万トン	0.0万トン
R3/4年	66万人	8.8泊 (注4)	17.7回	0.1万トン	0.1万トン
R4/5年	1,404万人	8.8泊 (注4)	17.7回	1.9万トン	2.1万トン
R5/6年	3,214万人	10.1泊	20.3回	5.1万トン	5.6万トン
R6/7年	4,061万人 (注1)	9.0泊	18.0回	5.7万トン	6.3万トン

(5年平均) **2.6万トン** 2.8万トン

R7/8年 (推計)	4,384万人 (注2)	9.0泊	18.0回	6.1万トン	6.8万トン
---------------	-----------------	------	-------	---------------	--------

出典：観光庁「インバウンド消費動向調査」(旧：訪日外国人消費動向調査)

注1：2025年5月と2025年6月は観光庁が公表している速報値。

注2：政府目標(2030年：6,000万人)に向かって直線的に増加すると仮定して推計

注3：平均泊数は、暦年の数値で公表されているため、R4/5年はR4年、R5/6年はR5年、R6/7年はR6年の数値など、米穀年度にあてはめて試算している。

注4：令和2～4年の訪日外国人消費動向調査は長期滞在者に結果が偏っていることから、直近で代替となる令和元年のデータを使用

注5：1泊当たり2回と仮定

注6：1回当たり78g (FAO供給熱量データに基づき推定)として推計。玄米換算は歩留まりを一律90.6%で計算

家計購入量の増加

- 総務省の「家計調査」の結果では、二人以上世帯を中心に米の購入量は増加したと推計。

米の家計購入量の増加（家計調査）

		二人以上世帯	(参考) 単身世帯
R4/5年	1世帯当たり購入量	56.6kg	21.4kg
	世帯数	3,446万世帯	2,188万世帯
	家計購入量	215.4万トﾝ	51.7万トﾝ
R5/6年	1世帯当たり購入量	57.2kg	19.4kg
	世帯数	3,441万世帯	2,224万世帯
	家計購入量	217.4万トﾝ (+2.0万トﾝ)	47.7万トﾝ
R6/7年	1世帯当たり購入量	60.2kg	20.5kg
	世帯数	3,436万世帯	2,260万世帯
	家計購入量	228.1万トﾝ (+10.7万トﾝ)	51.1万トﾝ

米の販売数量の増加（POSデータ）

	R4/5	R5/6	R6/7
販売数量 (R4/5=100)	100	103	104

注1：世帯当たり購入量については、各年とも、7月から6月までの値。

R6/7年については、R7年5月が最新値であることから、R7年6月分について前年同月と同値と仮定して作成。

注2：POSデータによる販売数量は、R4/5年を100とした指数。

出典：総務省「家計調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計」、農林水産省「スーパーでの販売数量・価格の推移」

購入量増加の背景（米の値ごろ感や米不足への不安）

- 家計購入量が増加した要因を特定することは難しいが、R5/6年には、米の相対的な値ごろ感、R6/7年には、米不足に対する不安や消費者心理などが影響したと考えられる。

米・パン・めんの消費者物価指数

（令和2年を100とした指数）

	令和3年 （7月）	令和4年 （7月）	令和5年 （7月）	令和6年 （6月）	令和7年 （6月）
米類	97.5	91.5	95.0	106.7	213.5
パン	99.4	110.6	120.9	121.3	126.1
めん類	99.0	109.5	121.6	120.3	121.0

出典：総務省「消費者物価指数（令和2年基準）」

米不足への不安等に関する有識者意見 （令和7年7月30日食糧部会）

- 5年産の品質・収量が悪い中で、南海トラフ臨時情報があり、**6年産の米は果たして足りるのかという不安**が働いて皆集めに走った。
【山波委員（農業者）】
- 株式などと同様、**不安感など、市場での価格は心理で動く**ことがある。
【宮島委員（日テレ）】
- **台風や地震が発生した際には消費者はもう1袋買っておこうとなる**ので、そういったことにも対応できるようにしていくことが重要。
【金戸委員（株武蔵野（中食事業者））】

令和5年産・6年産の生産量・需要量（推計値）等

- 家計調査では、全体の需要量の把握は難しいため、卸の精米とう精数量（468社）から全体の需要量（精米ベース）を推計。
- **その結果、令和4年産と比較して、令和5年産・6年産は増加。**これに加え、高温障害等により精米歩留まりが悪かったことから、需要量（玄米ベース）は、令和4年産よりも令和5年産、6年産は増加。

とう精数量の推移

	① 投入量 (玄米万トン)	② 精米歩留り	③=①×② とう精数量 (精米万トン)
令和4/5年 (価格高騰前)	340	<7-8月> 90.3% (3年産)	306.2
		<9-6月> 90.0% (4年産)	
令和5/6年	353	<7-8月> 90.0% (4年産)	313.5
		<9-6月> 88.6% (5年産)	
令和6/7年 (備蓄米除き :330)	348	<7-8月> 88.6% (5年産)	309.7 (備蓄米除き: 293.6)
		<9-6月> 89.2% (6年産)	



精米歩留りを踏まえた需要量推計

④=①/⑦ 比率 (玄米)	⑤=①/0.492 推計需要量 (玄米万トン)	⑥=⑤×② 推計需要量 (精米万トン)	⑦ 需要実績 (玄米万トン)
0.492	691	622	691
-	717	635	705
-	707	631	711

基本指針の
需要実績

※調査対象：年間取扱量500トン以上の卸売事業者630社。うち468社から回答

※価格高騰前のR4年産のとう精数量（需要に直結）と需要量の比率から、R5・6年産の需要量を推計

R7/8年の需給見通しに関する基本的な考え方（案）

これまで

- 需要見通しは、1人当たりの消費量の減、人口減少等による需要のマイナス・トレンドの継続を前提として算定。
- 生産見通しは、次年度の期末在庫量の水準を踏まえて設定。
- いずれも、玄米ベースのみで算定。

R7/8年の需給見通し

- 需給を把握するためには、玄米ベースのみでなく、精米ベースでの把握が必要。
- 需要見通しは、人口減少や直近の1人当たり精米ベースの消費量の実績、インバウンド需要の動向、精米歩留りを考慮して幅で設定。

これを検証するものとして、とう精数量・精米歩留りの実績を踏まえた需要量の推計を行う。

- 生産見通しは、6月末時点の水田における作付意向面積や直近の単収、8月15日現在の10a当たり収量の見込みを考慮して幅で設定。（9月25日現在の予想収穫量を踏まえて変更）

令和7/8年の主食用米等の需要見通しの算出（従来の方法で算出した場合）

- 令和7/8年の主食用米等の需要見通しについて、消費量のマイナス・トレンドを前提に算出する従来の方法により算出した場合、前年実績に比べ42万トン減の668万トンとなる。

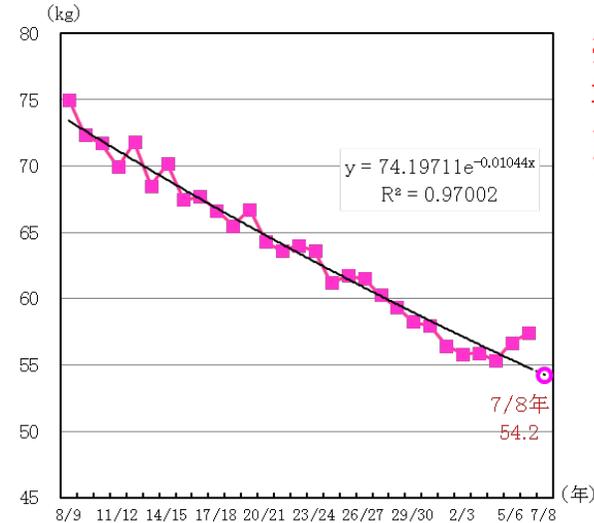
【従来の算出方法】

- ① 直近年までの需要実績を当該年の人口で除し、各年の1人当たり消費量を算出
- ② ①で算出した値を用いたトレンド(回帰式)により、7/8年の1人当たり消費量(推計値)を算出
- ③ ②で算出した値に令和7年人口(推計値)を乗じて算出

①平成8/9年から令和6/7年までの1人当たり消費量の算出

年	需要実績 ①	人口 ②	1人当たり消費量 ①/②
	万トン	千人	kg
8/9	943.8	125,859	75.0
9/10	912.9	126,157	72.4
10/11	907.3	126,472	71.7
11/12	885.9	126,667	69.9
12/13	911.5	126,926	71.8
13/14	872.1	127,316	68.5
14/15	894.7	127,486	70.2
15/16	861.6	127,694	67.5
16/17	865.4	127,787	67.7
17/18	851.7	127,768	66.7
18/19	837.5	127,901	65.5
19/20	854.5	128,033	66.7
20/21	823.6	128,084	64.3
21/22	814.1	128,032	63.6
22/23	820.0	128,057	64.0
23/24	813.3	127,834	63.6
24/25	781.1	127,593	61.2
25/26	786.6	127,414	61.7
26/27	782.5	127,237	61.5
27/28	766.2	127,095	60.3
28/29	754.0	127,042	59.4
29/30	739.6	126,919	58.3
30/元	734.6	126,749	58.0
元/2	714.4	126,555	56.4
2/3	704.0	126,146	55.8
3/4	701.5	125,502	55.9
4/5	691.1	124,947	55.3
5/6	704.9	124,352	56.7
6/7	710.6	123,802	57.4

②令和7/8年の1人当たり消費量(推計値)の算出



③令和7/8年の1人当たり消費量(推計値)に令和7年人口(推計値)を乗じて需要見通しを算出

		7/8年
1人当たり消費量(推計値)	①	54.2kg
		7年
人口(推計値)	②	123,220千人
		7/8年
需要見通し	①×②	668.4万トン

令和7/8年の主食用米等の需要見通しの算出（見直し） 【精米ベースで算出】

- 1人当たり消費量は、直近5年ではマイナス・トレンドとなっておらず、直近の需要の動向を反映するため、直近5年の平均値と最大値の幅を持って設定。
- その上で、人口推計やインバウンド需要を考慮して、需要見通しを幅を持って設定。

【令和7/8年の主食用米等の需要見通しの算出方法】

I 1人当たり消費量(精米ベース)の算出

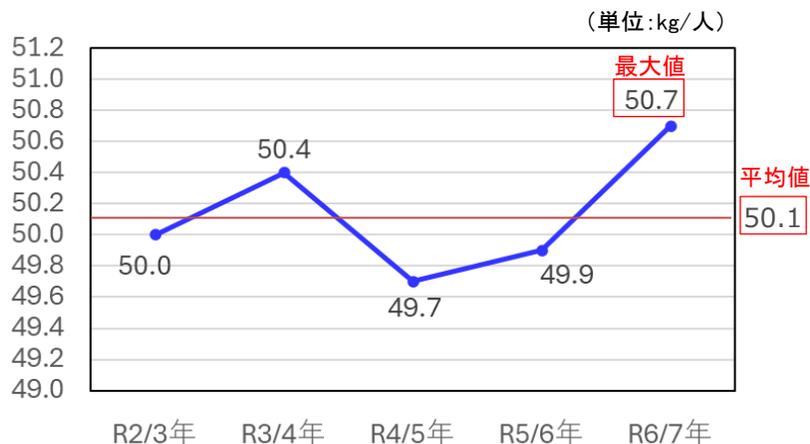
- ① 直近5年(令和2/3年～6/7年)の需要実績(精米ベース)から当該年のインバウンド需要を減じた上で、当該年の人口で除し、各年の1人当たり消費量(精米ベース)を算出

※需要実績にはインバウンド需要が含まれているため、これを減じた上で、人口で除し、日本在住者の1人当たり消費量を算定

$$(\text{需要実績} - \text{インバウンド需要}) \div \text{人口} = \text{1人当たり消費量}$$

- ② ①で算出した直近5年の1人当たり消費量の平均値と最大値の幅をもって設定

(参考1) 1人当たり消費量(精米ベース)の推移



II 需要見通し(精米・玄米ベース)の算出

- ① Iの②で算出した「平均値」と「最大値」について、令和7年の人口(推計値)を乗じた上で、令和7/8年のインバウンド需要(試算)を加え、需要見通しを算定

$$(\text{1人当たり消費量} \times \text{人口推計}) + \text{インバウンド需要(試算)} = \text{需要見通し}$$

- ② ①で算出した精米ベースの需要量見通しについて、精米歩留りの直近5年の実績ベースの幅(直近5年平均値、直近5年最低値)をもって玄米換算

(参考2) 訪日外国人による米の需要量の推移

(単位: 万ト)

R2/3	R3/4	R4/5	R5/6	R6/7	R7/8 (推計値)
0.0	0.1	1.9	5.1	5.7	6.1

(参考3) 精米歩留りの推移

(単位: %)

2年産	3年産	4年産	5年産	6年産	5年平均
89.7	90.3	90.0	88.6	89.2	89.6

令和7/8年の主食用米等の需要見通しの算出

【算出のポイント】

- ① 1人当たり消費量：マイナストrend⇒直近5年の実績ベースを幅で設定
- ② インバウンド需要：新たに需要量に盛り込む
- ③ 精米歩留まり：直近5年の実績ベースを「幅」で設定

【令和7/8年の主食用米等の需要見通しの算出方法】

I 1人当たり消費量(精米ベース)

①直近5年平均値

$$\left[\begin{array}{c} \text{直近5年平均} \\ \text{需要実績} \\ \hline 629\text{万トン} \end{array} - \begin{array}{c} \text{直近5年平均} \\ \text{インバウンド需要量} \\ \text{(試算)} \\ \hline 2.6\text{万トン} \end{array} \right] \div \begin{array}{c} \text{直近5年平均人口} \\ \hline 124,950\text{千人} \end{array} = \begin{array}{c} \text{直近5年平均} \\ \text{一人当たり消費量} \\ \text{(インバウンド需要除く)} \\ \hline 50.1\text{kg/人} \end{array}$$

②直近5年の最大値(令和6/7年)

$$\left[\begin{array}{c} \text{令和6/7年} \\ \text{需要実績} \\ \hline 633\text{万トン} \end{array} - \begin{array}{c} \text{令和6/7年} \\ \text{インバウンド需要量} \\ \text{(試算)} \\ \hline 5.7\text{万トン} \end{array} \right] \div \begin{array}{c} \text{令和6年人口} \\ \hline 123,802\text{千人} \end{array} = \begin{array}{c} \text{令和6/7年} \\ \text{一人当たり消費量} \\ \text{(インバウンド需要除く)} \\ \hline 50.7\text{kg/人} \end{array}$$

II 令和7/8年需要量(玄米ベース)

$$\begin{array}{l} \begin{array}{c} \text{一人当たり消費量} \\ \text{(インバウンド需要除く)} \\ \hline 50.1\text{kg/人} \end{array} \times \begin{array}{c} \text{令和7年人口} \\ \text{(推計値)} \\ \hline 123,220\text{千人} \end{array} = \begin{array}{c} \text{令和7/8年需要量} \\ \text{(インバウンド需要除く)} \\ \hline 617.9\text{万トン} \end{array} + \begin{array}{c} \text{令和7/8年} \\ \text{インバウンド需要量(試算)} \\ \hline 6.1\text{万トン} \end{array} = \begin{array}{c} \text{令和7/8年需要量} \\ \text{【精米ベース】} \\ \hline 624.0\text{万トン} \end{array} \xrightarrow{\div 0.896} \begin{array}{c} \text{令和7/8年需要量} \\ \text{【玄米ベース】} \\ \hline 697.2\text{万トン} \end{array} \\ \sim \\ \begin{array}{c} 50.7\text{kg/人} \end{array} \times \begin{array}{c} 123,220\text{千人} \end{array} = \begin{array}{c} 624.5\text{万トン} \end{array} + \begin{array}{c} 6.1\text{万トン} \end{array} = \begin{array}{c} 630.6\text{万トン} \end{array} \xrightarrow{\div 0.886} \begin{array}{c} 710.9\text{万トン} \end{array} \end{array}$$

(参考1)一人当たり消費量(精米)の推移

	需要実績 (万 ^ト)		インバウンド 需要 (万精米 ^ト) ②	人口 (千人) ③	1人当たり 消費量 (精米kg) (①-②)÷③
	玄米	精米 ①			
R2/3年	704.0	631.3	0.0	126,146	50.0
R3/4年	701.5	632.8	0.1	125,502	50.4
R4/5年	691.1	622.3	1.9	124,947	49.7
R5/6年	704.9	626.2	5.1	124,352	49.9
R6/7年	710.6	633.1	5.7	123,802	50.7
5年平均	702.4	629.1	2.6	124,950	50.1

(参考2)精米歩留りの推移

2年産	3年産	4年産	5年産	6年産	5年平均
89.7	90.3	90.0	88.6	89.2	89.6

令和7/8年の主食用米の生産見通しの算出（試算）【精米ベースで算出】

【令和7/8年の主食用米等の生産見通しの算出方法】

I 水田における作付意向(令和7年6月末時点)

各県の令和7年6月末時点の主食用米の作付意向面積：全国計136.3万ha

II 令和7年産水稻の8月15日現在における10a当たり収量の前年比見込み

7年産水稻の10a当たり収量の前年比見込み		都道府県数
上回る	(対前年比 106%以上)	1
やや上回る	(対前年比 105%~102%)	12
前年並み	(対前年比 101%~ 99%)	29
やや下回る	(対前年比 98%~ 95%)	4
下回る	(対前年比 94%以下)	0

III 令和7年産主食用米の生産見通し

令和7年産主食用米の生産見通しは、

- ① 各県ごとに、Iの主食用米作付意向(6月末時点)面積(ha)に前年(6年産)の10a当たり収量及びIIの令和7年産水稻の8月15日現在における10a当たり収量の前年比見込み(上限値及び下限値)を乗じて生産見通しを算出

$$\begin{array}{ccccccc}
 \text{7年産} & & & & & & \text{7年産} \\
 \text{主食用米生産見通し} & = & \text{主食用米作付意向面積} & \times & \text{10a当たり収量} & \times & \text{10a当たり収量の} \\
 & & & & & & \text{前年比見込み} \\
 & & & & & & \text{(上限値、下限値)}
 \end{array}$$

- ② ①の各県別の生産見通しを合計した全国計の最大・最小値を幅をもって設定した上で、精米歩留りの直近5年平均値と最低値を用いて、幅をもって精米ベースの生産量を設定。

➡
精米ベース： 645 ~ 668万トン
歩留り0.886
⇕
⇕
歩留り0.896 (※)

玄米ベース： 728 ~ 745万トン

※ 本年10月中旬公表予定の作物統計調査(9/25現在の予想収穫量)が公表された以降は、当該数値に置き換え(ふるい目幅1.7mm以上(参考値)に加え、農家ふるい目以上での収穫量も付記)

令和7 / 8年の需給見通し (案)

令和7年5月 基本指針

【令和6/7年の主食用米等の需給見通し】

(万トン(玄米))

令和6/7年	令和6年6月末民間在庫量	A	153
	令和6年産主食用米等生産量	B	679
	令和6/7年主食用米等供給量計	C=A+B	832
	令和6/7年主食用米等需要量	D	674
	令和7年6月末民間在庫量	E=C-D	158

【令和7/8年の主食用米等の需給見通し】

(万トン(玄米))

令和7/8年	令和7年6月末民間在庫量	E	158
	令和7年産主食用米等生産量	F	683
	令和7/8年主食用米等供給量計	G=E+F	841
	令和7/8年主食用米等需要量	H	663
	令和8年6月末民間在庫量	I=G-H	178

注1: ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。
 注2: 上記の見通しは、国内で生産された主食用米等の需給見通しであり、SBS方式による輸入米は含まれない。

需給見通し(案)

【令和6/7年の主食用米等の需給実績(速報値)】

(万トン(精米)) (万トン(玄米))

令和6/7年	令和6年6月末民間在庫量	J	135	153
	令和6年産主食用米等生産量	K	606	679
	政府備蓄米供給数量	L	32	36
	令和6/7年主食用米等供給量計	M=J+K+L	773	868
	令和6/7年主食用米等需要量	N	633	711
	令和7年6月末民間在庫量	O=M-N	140	157

【令和7/8年の主食用米等の需給見通し】

(万トン(精米)) (万トン(玄米))

令和7/8年	令和7年6月末民間在庫量	O	140	157
	令和7年産主食用米等生産量	P	645~668	728~745
	政府備蓄米供給数量	Q	21	24
	令和7/8年主食用米等供給量計	R=O+P+Q	807~829	908~926
	令和7/8年主食用米等需要量	S	624~631	697~711
	令和8年6月末民間在庫量	T=R-S	176~205	198~229

注1: ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。
 注2: 上記の見通しは、国内で生産された主食用米等の需給見通しであり、SBS方式や枠外の民間輸入(令和6/7年: 約4万実トン)による輸入米は含まれない(財務省「貿易統計」より)。
 注3: 令和7年産の予想収穫量(9月25日現在)や精米歩留り率等が判明した後に、これらを需給見通しの各数値に適宜反映させる。

需給の変動に柔軟に対応できるR7/8年以降の需給見通しの策定について

R7/8需給見通し

<10～11月>

- 需要見通し：人口減少や直近の1人当たり精米ベースの消費量の実績、インバウンド需要の動向、精米歩留りを考慮して幅で設定。（ふるさと納税は、調査内容を精査し次第、見通しに反映）
これを検証するものとして、とう精数量・精米歩留りの実績を踏まえた需要量の推計を行う。
- 生産見通し：R7年産予想収穫量（9月25日現在）（10月中旬）を踏まえて変更。

<3月>

- 需要見通し：上記の考え方を踏襲しつつ、ふるさと納税や家計調査等により需要量の変動やその要因の変化を極力把握し、逐次変更。
- 生産見通し：R7年産収穫量（確報）（2月下旬）を反映。
- いずれも、約半年分の精米歩留りの実績を反映。

R8/9需給見通し

<10～11月>

- 需要見通し：R7/8の需要見通しの算定の考え方を踏襲して設定。
 - 生産見通し：需要に応じた生産を図るため、R7年産予想収穫量（9月25日現在）を踏まえつつ、需要見通しに対して余裕を持って設定。
- ⇒ **8年産の生産に向け、種子注文が本格的に行われる11月に間に合う時期に需給見通しを作成。**

<3月>

- 需要見通し：上記の考え方を踏襲しつつ、ふるさと納税や家計調査等により需要量の変動やその要因の変化を極力把握し、逐次変更。
 - 生産見通し：需要に応じた生産を図るため、R7年産収穫量（確報）を踏まえつつ、需要見通しに対して余裕を持って設定。
 - 需要見通し、生産見通しは、いずれも約半年分の精米歩留りの実績（2月頃）を反映。
- ⇒ **8年産の6月20日の営農計画書提出期限に向け、生産者が主食用か非主食用とするかを判断できるよう、最新の動向を反映して変更。**

R9/10需給見通し以降

<7月>

- 需要見通し：とう精数量・精米歩留りの実績を踏まえた推計を充実させ、この推計をベースに算定する方向で検討。また、緊急調査を踏まえた生産・流通・消費の実態把握で得られた情報などを反映することを検討。
- 生産見通し：需要に応じた生産を図り、需要見通しに対して余裕を持って設定。

※ 需要見通し・生産見通しはいずれも玄米ベースに加え、精米ベースでも設定。

※ 生産や消費の最新の動向に応じて、柔軟に需給見通しの変更を実施。

※ 民間輸入米は、本年6・7月で約4.7万トンと昨年比で大きく増加。仮にこのまま推移すれば、国産主食用米の需要量を減少させる可能性があるため、引き続き状況を注視。

【参考】令和7/8年の主食用米等の需要見通しの算出（とう精数量から推計した需要量を用いて試算）

【算出のポイント】

とう精数量から推計した需要量をもとに算出

- ① 1人当たり消費量：マイナストrend⇒直近3年の実績ベースを幅で設定
- ② インバウンド需要：新たに需要量に盛り込む
- ③ 精米歩留まり：直近5年の実績ベースを「幅」で設定

【令和7/8年の主食用米等の需要見通しの算出方法】

I 1人当たり消費量(精米ベース)

① 直近3年平均値

$$\left(\begin{array}{c} \text{直近3年平均} \\ \text{需要実績} \\ \hline 629\text{万トン} \end{array} - \begin{array}{c} \text{直近3年平均} \\ \text{インバウンド需要量} \\ \text{(試算)} \\ \hline 4.2\text{万トン} \end{array} \right) \div \begin{array}{c} \text{直近3年平均人口} \\ \hline 124,367\text{千人} \end{array} = \begin{array}{c} \text{直近3年平均} \\ \text{一人当たり消費量} \\ \text{(インバウンド需要除く)} \\ \hline 50.3\text{kg/人} \end{array}$$

② 直近3年の最大値(令和6/7年)

$$\left(\begin{array}{c} \text{令和6/7年} \\ \text{需要実績} \\ \hline 631\text{万トン} \end{array} - \begin{array}{c} \text{令和6/7年} \\ \text{インバウンド需要量} \\ \text{(試算)} \\ \hline 5.7\text{万トン} \end{array} \right) \div \begin{array}{c} \text{令和6年人口} \\ \hline 123,802\text{千人} \end{array} = \begin{array}{c} \text{令和6/7年} \\ \text{一人当たり消費量} \\ \text{(インバウンド需要除く)} \\ \hline 50.5\text{kg/人} \end{array}$$

II 令和7/8年需要量(玄米ベース)

$$\begin{array}{l} \begin{array}{c} \text{一人当たり消費量} \\ \text{(インバウンド需要除く)} \\ \hline 50.3\text{kg/人} \end{array} \times \begin{array}{c} \text{令和7年人口} \\ \text{(推計値)} \\ \hline 123,220\text{千人} \end{array} = \begin{array}{c} \text{令和7/8年需要量} \\ \text{(インバウンド需要除く)} \\ \hline 619.3\text{万トン} \end{array} + \begin{array}{c} \text{令和7/8年} \\ \text{インバウンド需要量(試算)} \\ \hline 6.1\text{万トン} \end{array} = \begin{array}{c} \text{令和7/8年需要量} \\ \text{【精米ベース】} \\ \hline 625.4\text{万トン} \end{array} \begin{array}{l} \nearrow 0.896 \\ \text{玄米} \\ \text{換算} \\ \searrow 0.886 \end{array} \begin{array}{c} \text{令和7/8年需要量} \\ \text{【玄米ベース】} \\ \hline 698.8\text{万トン} \end{array} \\ \begin{array}{c} \sim \\ 50.5\text{kg/人} \end{array} \times \begin{array}{c} \hline 123,220\text{千人} \end{array} = \begin{array}{c} \sim \\ 622.4\text{万トン} \end{array} + \begin{array}{c} \hline 6.1\text{万トン} \end{array} = \begin{array}{c} \sim \\ 628.5\text{万トン} \end{array} \begin{array}{c} \hline 708.5\text{万トン} \end{array} \end{array}$$

(参考1)一人当たり消費量(精米)の推移

	需要実績 (万トン)		インバウンド 需要 (万精米トン) ②	人口 (千人) ③	1人当たり 消費量 (精米kg) (①-②)÷③
	玄米	精米 ①			
R4/5年	691	622	1.9	124,947	49.6
R5/6年	717	635	5.1	124,352	50.7
R6/7年	707	631	5.7	123,802	50.5
3年平均	705	629	4.2	124,367	50.3

※ R5/6年及びR6/7年の需要実績(玄米)は、とう精数量から推計した値(推計値)。

(参考2)精米歩留りの推移

(単位:%)					
2年産	3年産	4年産	5年産	6年産	5年平均
89.7	90.3	90.0	88.6	89.2	89.6

令和7年5月 基本指針

【令和6/7年の主食用米等の需給見通し】

(万トン(玄米))

令和6/7年	令和6年6月末民間在庫量	A	153
	令和6年産主食用米等生産量	B	679
	令和6/7年主食用米等供給量計	C=A+B	832
	令和6/7年主食用米等需要量	D	674
	令和7年6月末民間在庫量	E=C-D	158

【令和7/8年の主食用米等の需給見通し】

(万トン(玄米))

令和7/8年	令和7年6月末民間在庫量	E	158
	令和7年産主食用米等生産量	F	683
	令和7/8年主食用米等供給量計	G=E+F	841
	令和7/8年主食用米等需要量	H	663
	令和8年6月末民間在庫量	I=G-H	178

注1: ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。
 注2: 上記の見通しは、国内で生産された主食用米等の需給見通しであり、SBS方式による輸入米は含まれない。

需給見通し(案)

【令和6/7年の主食用米等の需給実績(速報値)】

(万トン(精米)) (万トン(玄米))

令和6/7年	令和6年6月末民間在庫量	J	135	153
	令和6年産主食用米等生産量	K	606	679
	政府備蓄米供給数量	L	32	36
	令和6/7年主食用米等供給量計	M=J+K+L	773	868
	令和6/7年主食用米等需要量	N	633	711
	令和7年6月末民間在庫量	O=M-N	140	157

【令和7/8年の主食用米等の需給見通し】

(万トン(精米)) (万トン(玄米))

令和7/8年	令和7年6月末民間在庫量	O	140	157
	令和7年産主食用米等生産量	P	645~668	728~745
	政府備蓄米供給数量	Q	21	24
	令和7/8年主食用米等供給量計	R=O+P+Q	807~829	908~926
	令和7/8年主食用米等需要量	S	625~629	699~709
	令和8年6月末民間在庫量	T=R-S	178~204	201~228

注1: ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。
 注2: 上記の見通しは、国内で生産された主食用米等の需給見通しであり、SBS方式や枠外の民間輸入(令和6/7年:約4万実トン)による輸入米は含まれない(財務省「貿易統計」より)。
 注3: 令和7年産の予想収穫量(9月25日現在)や精米歩留り率等が判明した後に、これらを需給見通しの各数値に適宜反映させる。

【参考】民間貿易による輸入状況（枠外輸入）

- 国家貿易以外のコメの輸入（枠外輸入）には、高水準の枠外関税（341円/kg）を設定。貿易統計によると、毎年、インド産やタイ産の長粒種など、600～800トン程度が輸入。
- 2024～2025年度は、国内の米価の高止まりを受けて、2024年度S B S輸入の年間上限10万トン全量が落札され、S B S輸入で落札できなかった事業者等が、枠外関税を支払って主食用米を輸入する動きが拡大。
- **2025年7月の輸入数量は26,397トンで、2024年（1～12月）の1か月平均約85トンと比べて、約300倍に増加。**

<会計年度（4月～翌3月）ごとの輸入数量>

2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	2025年度 (令和7年度) ※7月末時点
623トン	805トン	871トン	773トン	730トン	3,011トン	64,821トン

<月別の輸入数量>

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1～12月 合計	1か月 あたり 平均
2024年	49	59	79	13	115	58	124	64	41	93	202	118	1,015	85
2025年	414	489	1,280	6,838	10,607	20,979	26,397	-	-	-	-	-	67,004	5,584

資料：財務省「貿易統計」

注1：枠外関税を支払って、民間貿易により輸入されたコメ（もみ、玄米、精米、砕米の合計）の数量

注2：単位は実トン